
東京低地における歴史時代の環境変遷

久保純子

東京低地における歴史時代の地形や水域の変遷を、平野の微地形を手がかりとした面的アプローチにより復元するとともに、これらの環境変化と人類の活動とのかかわりを考察した。本研究では東京低地の微地形分布図を作成し、これをベースに、旧版地形図、歴史資料などから近世の人工改変（海岸部の干拓・埋立、河川の改変、湿地帯の開発など）がすすむ前の中世頃の地形を復元した。中世の東京低地は、東部に利根川デルタが広がる一方、中部には奥東京湾の名残が残り、おそらく広大な干潟をともなっていたのであろう。さらに、歴史・考古資料を利用して古代の海岸線の位置を推定した結果、古代の海岸線については、東部では「万葉集」に詠われた「真間の浦」ラグーンや市川砂州、西部は浅草砂州付近に推定されるが、中央部では微地形や遺跡の分布が貧弱なため、中世よりさらに内陸まで海が入っていたものと思われた。以上にもとづき、1)古墳～奈良時代、2)中世、3)江戸時代後期、4)明治時代以降各時期の水域・地形変化の復元をおこなった。

中央学院大学商学部
〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451
Chuo-Gakuin University,
Abiko, Chiba, 270-1196 Japan